

特集

熊本大学大学院生命科学研究部 小児科学分野教授就任のご挨拶

大学院生命科学研究部
小児科学分野教授

中村 公俊

平成二十九年九月一日付で熊本大学大学院生命科学研究部小児科学分野教授を拝命いたしました。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

私は熊本で生まれ育ち、熊本高校を卒業後に熊本大学医学部医学科へ入学いたしました。平成二年に熊本大学医学部を卒業し、松田一郎名誉教授が主宰されていた小児科学教室に入局いたしました。

小児科では幅広い分野の難治性疾患や新生児疾患などを学び、小児科認定医、さらに専門医・指導医を取得しました。平成四年に大学院に進学し、松田一郎先生、遠藤文夫先生のご指導を仰ぎながら代謝異常症の研究を行い、医学博士の学位を取得しました。平成八年からはカナダのアルバータ大学医学部生化学教室 Marek Michalak 博士の研究室でポストドクとしてカルシウムシグナルの研究に携わ

りました。平成十二年に帰国後は、発生医学研究センター、熊本大学小児科に所属し、平成十三年に助手、平成二十一年に講師、平成二十六年に准教授となり、遠藤文夫名誉教授の後任として、第十三代の熊本大学小児科学分野教授に昇任いたしました。

遠藤教授が退任された直後には、熊本地震に遭いました。熊本県内の小児医療は大きな被害を受け、特に新生児や小児循環器領域などにおいて長期にわたる影響が続いています。これらの課題については、第一四〇回熊本小児科学会においては「熊本地震、その後」と題したシンポジウムをおこなうなど、様々な角度から取り組みを続けているところです。

また、教室の伝統である先天代謝異常学分野では、ライソゾーム病スクリーニングの国際会議を毎年開催し、厚労省研究班の代表者としてエビデンス創出研究とガイドラインのとりまとめに関わっています。

さらに、大学の使命である診療、研究、教育に全力で取り組み、これらの仕事の中で生まれてくる苦勞を楽しみに変えながら、熊本の小児医療に携わる人たちが十分に力を発揮できる環境を作り、世界の小児科学の発展と地域医療に力を尽くしたいと存じます。小児科に興味を持つ医師、医学生が、私たちとともに小児医療・研究に参加してくれることを心から願っております。これからもご指導、ご

鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

熊本大学大学院生命科学研究部 脳神経外科学分野教授就任のご挨拶

大学院生命科学研究部
脳神経外科学分野教授

武笠 晃丈

平成二十九年九月一日付で、熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学分野教授を拝命いたしました武笠晃丈と申します。

私は平成六年に東京大学医学部を卒業後、桐野高明前教授（現 佐賀県医療センター好生館理事長）が主宰される東京大学脳神経外科学教室に入局いたしました。入局後は、近藤達也部長（現 P M D A 理事長）が率いる国立医療センターと東大病院での研修後、地域の脳外科診療の中核病院にて、脳卒中や外傷などの救急診療や手術に明け暮れる日々を過ごしました。連日病院に泊まりこんで診療を続けることもしばしばあり、働き方改革が叫ばれる現在では難しいであろう辛くも充実した時期でした。

こうして平成十二年に専門医資格を取得するとともに大学院に入学し、東京大学先端科学技術センター・ゲノムサイエ

ンス分野の油谷浩幸先生の研究室にて、脳腫瘍や脳虚血モデルを使用した網羅的な遺伝子解析研究に従事させて頂き学位を取得しております。ちょうどこの頃、ヒトの全ゲノム配列が同定公表された時期であり、現在に連なるゲノム医学の発展の一端に触れることが出来たのは幸運なことでした。学位取得後は、がんゲノム医学や脳腫瘍生物学で名高い、ウエブスター・キャベニー先生のもとで研究すべく、米国サンディエゴにある Ludwig がん研究所に留学し、国際的な交流を深めつつ、研究に没頭する日々を過ごしました。

平成十九年からは、東大病院脳神経外科に勤務し、脳外科全般の診療にたずさわりつつも、特に悪性脳腫瘍を中心とした診療及び基礎研究に力をいれて活動して参りました。脳腫瘍手術においては、融合三次元画像や電気生生理学的モニタリングを活用した手術や覚醒下手術などが発展を遂げた時期でもあり、これらに注力しつつ、悪性腫瘍診療に必要な様々な臨床的課題に取り組んで参りました。また研究面においては、関東近辺の複数の施設を取りまとめで、脳腫瘍臨床検体を利用したゲノム解析の研究グループを作って基礎研究を推進するなど、多くの大学院生らを指導しつつ活動して参りました。

今回は縁あって熊本に赴任し、これまでの様々な経験を活かしていく機会を頂